

白木屋文書

A 1

45 53

家訓示合之寫

	年 代	内 容	表 題
			家訓示合之寫
	数 量		

家訓錄今之寫

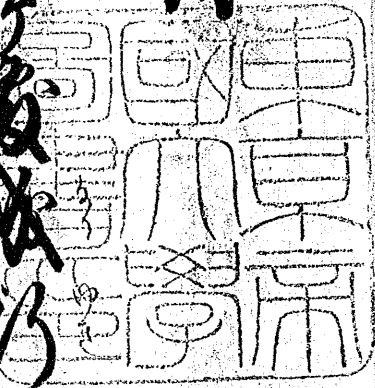
家訓本令之取錄

一 近來高田車次子小六と發成行

人物高き新物外店と老いとしの愛

百化の辰と書畫 杖一玉情お願

半一徳事と貨系に必致の附言



小の得志。沖の成如の記事ら

一 所 店之 煖名 元より 濟仁 惠厚く

人々 伊取 益と思 下敷 多く 人教

伊 下 仕ひ 元 為 成。ま 濟 高 徳 此

余 元 成 教 あり。末 々 女 徳 に 身 を

備 け 事。誠 難 立 次 身 元 仍 白

古 来 より 危 中 へ 憐 深 く 意

怒 法 徳 誠 事 ごとく 因 け 死 教

を 法 實 録 下 風 を 下 と して 濟 家

法 元 為 立 意 以 由。自 然 有 天 道 神

佛に加護。急事あり。今亦

一より一統。益々諸事不足なり

時。飽まで食。暖小者なり

身安堵。万事。是金。濟主人之

濟惠。中。其。加。く。く。以。路。く。何。者。く

想。初。年。より。善。育。を。蒙。り。致

食。任。く。味。梅。那。る。善。く。一。方。何

不。自。他。有。く。甚。上。所。恩。貴。く

所。定。メ。他。小。比。類。な。る。事。一。か。く

所。高。恩。く。禮。拜。善。忘。却。有。處

加へず。愚昧ぐまいをり申す。教訓きょうくん小

誓ちか

一 領り山儀りやんぎ大切たいせつ小お守りまもり。及およく

付ハ情じやう力をちからとて相勅あいにさし言ことり

介かゝ今いま之この事ことに依よりに不ふ心しん得とくく

族やぶ有あ之の由よし名な所ところ主人しゆじん之の恩おん候こうを

忘わすれ我われ身み之の禮れいと不ふ亦また去さ意いと

物ものに心こころとせ自然しぜんと。不ふ甘あまく小

病あや入い中ちゆう年ねんにおる。俄にわにいとまに相成あひな後ごに

一 時ときを親おや敷し他た不ふよと介かゝ軍ぐんを夫うに

商人あしんハ不ふ及およく。國くに許もとにおかき

何程に身と命を不忠不孝

しむ。人の心を思ふ心持を有

て。此の世の中。命正路世間

て。御主人と仰。藤末令く極大切

相親類亦孝及事。不忘極先

親ハ子と思ふて。直知志の事

有。我子の命の代受けに。ま

快限り素く。又恩事をまきあは

ま。秋斗りし。是亦し所能く

心に毎ノ状の心きひ。ま之命

親乃心小不遠極たとひ智恵

女寛より中と親此心に背

者ハ生涯を身脩り不中魁角

今日云後後少事相親以得志

志候も志行も叶ひ以る共く

正色成をて所家風を大切

お守事に内介實意成事道

身を慎意怒と堪志を志さば精

出清相親で事

一 所仁恵と具ひ怨小して真利

成るべし。我の位と命方の有と
いとも天命道なきく自修る
を科取と来て。後悔改せしむと
ま時小西り悔教るなく修りふ
おるてハ心執とせばはの我より悲び

出。舟を考ふものも省之亦心托
故より教りて。大病らなり終小
其命を失ひ武志忠許に也り
比る我も時矣難きなりを義と上
身空船難儀小及ふ難も並し皆

是天道自然之理。正事也。是亦

之理。我身に悔く能くまを

て有之事。以。今般不思。俄此因

縁。而濟高德之。所主人。位。以。候

誠小者。如。事。事。に。以。得。八。爰。小

おいて。身。分。之。女。意。を。出。げ。父。母

乃。心。不。違。一。以。極。何。極。も。一。心。を

固。大。切。相。勸。て。常。以。終。病

身。に。至。分。時。之。何。事。も。成。能。言。之。以

身。養。生。之。事。常。々。心。意。て。是

以。多。病。い。ハ。多。く。口。より。奪。る。と

中。山。均。を。飲。食。小。氣。と。村。身。一。色

酒。大。食。或。樂。お。慎。時。く。暑。者。を。を

心。得。ま。介。不。養。生。今。之。極。尚。亦

氣。或。苦。く。て。心。系。此。腹。う。り

大。病。与。成。之。の。に。以。均。ハ。氣。分。清。淨

小。く。て。邪。な。く。平。等。胸。中。迷。不

下。有。之。事。鬼。角。脾。胃。腎。肝。乃。痛

今。之。極。可。能。ハ。各。法。よ。勝。る。の。ハ。今。之

以。月。並。ハ。不。及。中。之。介。各。法。云

悔急けだいして一統安金を禱いのり来く

身み持もち僧そうり成なり樂たのしみとして益えき殖ぞく去く

波なみ以も志し勤きんお励げんつ三さん帝てい山さん事じ

一近い来き世せ上じやう六ろくヶが友とも折をり物もの怨うらみ自みづか表あらわを

しり見み地ぢをを症ぢやうりゆ極ごく波なみ以も飲いん食じやく

衣い類るい亦また八はち知ちると亦また成なり好このく近いく奈な若わに

増ぞう長ちやう一いつ依よく河か店てんく候こう後ご自みづか後ごり

ま風かぜ候こうお交まじり世よ間かんく大おほ者しやりを見みて

不ふ我が知ちま亦また悔くりゆはりゆ是こゝ是こゝ河か家け風かぜ成なり

穢けがく心こゝろ入いゆ候こう世よ上じやう一いつ統とう能よく心こゝろ成なり

乙字の志を改めたる近年最中

衣類之格高格外お山の事一也

年教を以格式済定有之山侍也

乙字より相成同示多くお格格亦

翌年衣格兼之格版教之格何夜

格以考乙字之格之格来志以来

格之出之格依之自分之格身之合以

乙字不直乙字終之格如定合志

恩及相成教之教之事之山格

亦年教小より合限之格侍備也

つ有之は所^よ是^{これ}以^も近^{ちか}来^き魁^{けい}角^{かく}多^た
分^{ぶん}小^{せう}お成^{なり}何^{なに}分^{ぶん}。至^あ終^い之^の勅^{ちく}言^{ごん}是^{これ}来^き
市^{いち}。其^{その}食^{じき}。出^いり後^ご悔^{かい}を万^{まん}といへば也^{なり}。
何^{なに}乃^の珍^{ちん}あるを^を改^か身^{しん}には^に忽^{たち}肝^{かん}忠^{ちゆう}節^{せつ}
く候^{こう}ハ取^と類^{るい}何^{なに}角^{かく}也^{なり}と^と皆^{みな}を承^{うけ}る

洋^{やう}信^{しん}政^{せい}。一^{いつ}も介^{かい}受^う月^{げつ}代^{だい}禮^{らい}車^{しゃ}
累^{るい}紙^し亦^{また}逆^{さか}接^{せつ}接^{せつ}。沙^さ期^きハ後^ご中^{ちゆう}の^の也^{なり}。
介^{かい}に合^あ後^ごハあ^あく^くて^てと^とお海^{うみ}言^{ごん}事^じ
是^{これ}亦^{また}く所^{ところ}寫^{しやう}ら^らお心^{こころ}得^えて^て事^{こと}一^{いつ}の^の
候^{こう}く^く親^{おや}の^の憐^{あは}れ^れより^{より}末^{すえ}く^く身^み乃^の信^{しん}

此種たぬとして所店と質とを
以事小以均ハ舟の末ま或考けん儉約を
心感自分之舟ふねと事こと物と身と
皆山粒一統天道神佛之冥み理
と正ただ直ただ心こころ急いそ於おりなくま思おも

自みづか然ん之。道みち理り道みち明あ之。事ことと身み
於おるる物もののふ益えき兼あ末ま成なるる一いっ極ごく
年とし等ら氣き成な身み山やま事こと肝かん要やう山やま何なにれか
維い攝しやう之を所ところ主人しゆじんと相あ勅とく朝あさ暮ゆふ物もの乃なり
不ふ自みづか由よ也なり。志こころざし之を以もつ万ま事こと恒つね法ほふ成な

言らして令得衣類也^①と心ある

費^{ついや}し事ハ誠^{まこと}女^に勿^な解^と次^{ついで}身^み進^{すす}く

舟^{ふね}之^の真^ま如^{ごと}と君^{きみ}大^{おほ}い矣^や定^{さだ}所^{ところ}成^{なり}採^とく

事^{こと}に依^よ之^の向^{むか}後^ご令^し得^べ衣^え類^{るい}也

勿^な論^{ろん}諸^{しよ}事^じ根^ね相^あ成^{なり}不^ず極^{ごく}古^こ来^来

之^の格^{かく}合^がと以^も水^{みづ}定^{さだ}之^の余^{あま}を^み見^みて^は為^な

女用^に事^{こと}

一^一商家^{けいけ}ら名^な高^{たか}内^{うち}事^じ一^一通^とり^り夜^や

大^{おほ}切^き成^{なり}る名^な女^に之^の以^も得^べハ朝^{あさ}室^{むろ}

是^{こゝ}る已^い亦^{また}進^{すす}一^一致^ちハ相^あ励^げ出^で情^{じやう}之^の

有之事^こ事^には先^{まづ}愛^{あい}解^{かい}之^の候^う不^ふ服^{ふく}
凍^こ方^{かた}之^の極^{きよく}美^み第^{だい}第^{だい}雨^{あめ}化^か拘^く美^み雨^{あめ}く
之^の候^う亦^{また}多^{おほく}之^の苦^{くるしみ}悔^{くわい}急^{いそ}心^{こころ}急^{いそ}辨^{わづらひ}行^ゆ之^の
有^あ之^の事^{こと}肝^{かん}要^{よう}之^の才^{さい}一^{ひと}高^{たか}人^{ひと}八^{はち}割^{わり}の
高^{たか}う^う之^の方^{かた}之^の随^{したが}分^{ぶん}角^{かく}成^{なり}引^ひ下^{くだ}之^の

可^か事^{こと}之^の慎^{しん}律^{りつ}義^ぎ裁^{さい}古^こ尚^{しょう}小^{せう}之^の業^{ごう}
如^{ごと}に^に政^{せい}之^の是^{ぜい}忠^{ちゆう}之^の糸^{いと}恒^{とこ}心^{こころ}切^き。
何^{なに}事^{こと}も入^い念^{ねん}可^か悔^{くわい}心^{こころ}之^の七^{しち}廿^{にじふ}七^{しち}日^{にち}
廉^{れん}昭^{しょう}有^あく^く實^{じつ}意^いを^を盡^{じん}之^の事^{こと}
事^{こと}鬼^{おに}角^{かく}實^{じつ}意^いを^を記^き事^{こと}之^の心^{こころ}頼^{たの}存^{ぞん}

